

1. 開催概要

展覧会名	ムンク展—共鳴する魂の叫び	
開催施設名	会期	入場者数
東京都美術館	2018年10月27日～2019年1月20日	669, 846人
●開催概要 巨匠・エドヴァルド・ムンクの愛と葛藤の生涯を辿りながら、60年に及ぶ画業の全容を紹介する大回顧展として、オスロ市立ムンク美術館のコレクションを中心に、約60点の油彩画に版画などを加えたムンク筆の作品全101点を展示した。ムンク美術館の協力のもと、世界的に著名な絵画である《叫び》の借用が実現。多彩なムンク作品を揃えてその画業をたどることで、ムンクの人生を追体験できる機会となった。 展示構成については、ムンク美術館のコレクションの多彩さを活かして、名画《叫び》の一点豪華主義ではなく、ムンクの複雑な人物像や人間関係から生まれた多様な表現に迫る構成とした。 ■第1章 ムンクとは誰か？ ムンクが残した数多くの自画像や自撮り写真を紹介。 ■第2章 家族と死 早世した姉などの家族の肖像や、同時代の芸術家達の肖像を展示。 ■第3章 夏の夜—孤独と憂鬱 夏のフィヨルドや、海岸の風景と人物など、30代頃の作品を中心に紹介。 ■第4章 魂の叫び—不安と絶望 《叫び》など1890年代の代表作を比較展示。 ■第5章 接吻、吸血鬼、マドンナ 愛や死をテーマとする、重要な主題を紹介。 【ムンク展会場配布作品リスト(1P目)】 ■第6章 男と女—愛、嫉妬、別れ 《生命のダンス》など、男女の愛にまつわる作品の数々を紹介。 ■第7章 全身肖像画 ムンクが長年手がけた等身大の肖像画を紹介。 ■第8章 躍動する風景—冬景色と太陽 壮年時代のムンクが描いた、祖国の自然をダイナミックに表現した風景画を展示。 ■第9章 画家の晩年 ムンクが晩年に生み出した、明るい色彩の怪快な作品を展示。		

2. 補償制度の活用による国民的利益に関する取組結果

① 展示作品の質・量の充実

ムンクによる作品は、《叫び》を初めとして有名なものも多く美術的価値が高く、借用を希望する作品の総評価額は約760億円にのぼったが、美術品補償制度の適用を受けることによって希望通りの点数の借用が可能となり、展覧会全体の質・量を充実させることができた。【予定保険金額 1,350 万円／実績 1,350 万円】

② 観覧料の軽減、無料化

中学生以下の入場無料とともに、12月を高校生無料日とした。無料期間中の高校生入場者は6,378人となり、多くの高校生に、本物の芸術に触れる機会を与えることができた。【予定軽減金額 410 万円／実績 510 万円】

③ 教育普及活動の充実

記念講演会を行った。会場は東京都美術館 講堂（交流棟 ロビー階/定員 225 名）。いずれもほぼ満席で盛況となった。また会期中、ムンクの作品を紹介する展示映像も設置し、子どもや若年層にも丁寧に魅力を伝えられた。【予定費用 817 万円／実績 817 万円】

■第1回講演会

2018年10月27日(土)

テーマ：「エドヴァルド・ムンク：絵画的実験と実存の探求」

講師：ヨン＝オーヴェ・スタイハウグ氏（ムンク美術館 展覧会およびコレクション部長）

■第2回講演会

2018年12月2日(日) 14:00～15:30

テーマ：「ムンク以前・以後」

講師：水沢勉氏（神奈川県立近代美術館 館長）

3. 事故の有無（軽微な事故、ヒヤリハット事例も含む）

万全の体制で輸送・展示作業を行ったこと、また、会期中も警備・監視要員を十分に配置していたことから、ヒヤリハット事例も含め、事故はまったくなかった。

4. 安全配慮に関する特別の対応

作品輸送時には車輛に日本側主催者またはムンク美術館のクーリエが同乗した。クーリエはムンク美術館のレジストラーもしくは修復家で、開梱時と梱包時の作品の点検にはムンク美術館の修復家と日本側の修復家が携わった。輸送は過去にムンク美術館がソウルで展覧会を行った経験を活かして、作品輸送実績のある大韓航空でソウル経由、また「叫び」についてはスカンジナビア航空でコペンハーゲン経由とした。特に評価額の高い「叫び」の輸送には、ムンク美術館の警備・セキュリティ担当がクーリエを務めた。全ての輸送計画はプロテクトのかけられたメールでやりとりされ、輸送便には国内輸送も含め警備がつけられた。

5. 紹介事例・今後の改善点等

これだけ大規模にムンク美術館のコレクションが日本へ貸し出されたのは初めてであり、同館が所蔵するムンクの代表作《叫び》のテンペラ・油彩画は初来日という歴史的な機会となった。美術品補償制度の適用により、日本において質・量とも十全な形で実現することができた。

有名な《叫び》に頼った展示にするのではなく、コレクションの多彩さを活かして、様々な切り口からムンクの複雑な人物像や多様な表現技法、日本ではほとんど知られていない晩年の明るい作品を紹介した。初期から最晩年までの質の高い作品を網羅できたことで、ムンクという巨匠の全体像を丁寧に来場者に伝えることができた。

東京都美術館での高校生無料日の設定については本展関連印刷物に記載して周知した。

輸送計画の際に、ムンク美術館の指定でフェリーを使用することとしたが、フェリー内での輸送の状態などの確認と把握が遅れ、有識者会議で詳細を報告できなかった。今後は、国家補償制度によって付保されているという責任を重く受け止め、イレギュラーな輸送の仕様などが見られる場合は、事前により詳細で正確な情報を把握するように努める。

6. 展覧会の収支決算書

主催者名 東京都美術館(公益財団法人東京都歴史文化財団)、株式会社朝日新聞社、株式会社テレビ朝日、株式会社ビーエス朝日

(収入)		(支出)		単位：円(税抜)	
内 訳	決算額 (当初予算額)	内 訳	決算額 (当初予算額)		
展覧会収入 (入場料、図録、グッズ等)	694,776,419 (5億6,789万円)	企画準備等基本経費 (借用料、保険料、輸送費、印刷費等)	463,330,737 (4億3,536万円)		
その他の収入 (協賛金)	50,000,000 (7,000万円)	設営・運営等会場関係経費 (広告宣伝費、展示施工費、警備費、 会場使用料等)	281,445,682 (2億5,000万円)		
収入総額	744,776,419 (6億3,789万円)	支出総額	744,776,419 (6億4,036万円)		